生　活　環　境　部
環　境　政　策　課
直　通　９３４－４７４０
クリーンセンター管理課
直　通　９３３－０７１１

2050 年までに脱炭素社会の実現を目指して

環境省では2050年(令和32年)までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方自治体として公表した自治体を「ゼロカーボンシティ」と定義しています。

本市では、頼重市長が令和 4 年 2 月沼津市議会定例会において「ゼロカーボンシティNUMAZU2050」を表明しました。これを受けて、山口壯環境大臣よりメッセージをいただきましたのでご紹介します。

■「ゼロカーボンシティ NUMAZU2050」

●市長表明

（令和４年２月沼津市議会定例会で表明）

本市の恵み豊かな自然環境を守っていくため、 市民、事業者、行政が一体となって、2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

再生可能エネルギー導入目標を策定し、「沼津市地球温暖化対策実行計画」に明記します。

また、再生可能エネルギーの導入、省エネルギーや資源循環の促進、市民の皆様へ向けた環境教育等を積極的に推進します。

●山口環境大臣からの書簡

（右記のとおり）

静岡県沼津市長　頼重　秀一　殿

貴市におかれましては、この度、地方公共団体として 2050 年の温室効果ガスの排出量実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを表明されました。

今回の貴市の表明をもちまして、ゼロカーボンシティは国内で 610 地方公共団体となりました。我が国としての 2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、大変心強く感じております。

近年、国内各地で大規模な災害が多発しているところですが、地球温暖化の進行に伴い、今後、気象災害の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われている気候変動問題に対処するため、2050 年カーボンニュートラルの実現を目指す必要があります。

現在、政府としては、2050 年カーボンニュートラルや 2030 年度 46 パーセント排出削減目標の達成に向け、再生可能エネルギーの最大限の導入などを掲げ、我が国の成長戦略の柱の一つとしているところです。

環境省としても、脱炭素社会、循環経済、分散型社会への３つの移行を推進し、今までの延長線上ではない、社会全体の行動変容を図ってまいります。

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けては、今後 30 年間のうち、とりわけこの５年間、10 年間が重要です。このため、地域脱炭素ロードマップに基づき、脱炭素先行地域づくりや、脱炭素の基盤となる重点対策の全国実施を進めていく必要があります。貴市及び他のゼロカーボンシティと連携しながら、地域脱炭素の更なる具体化・加速化を進めてまいります。

環境大臣　山口　壯

■まずは毎日欠かさず出るごみの分別・減量にみんなで取り組もう

●「令和３年度ごみの排出量（速報値）」

（単位:トン）

ごみの種類		令和２年度	令和３年度	前年度比
燃やすごみ		49,083	47,731	−2.8%
埋め立てごみ		1,165	1,060	−9.0%
プラスチック	容器包装	2,415	2,392	−0.9%
	熱源利用	2,079	1,930	−7.2%
資源		3,768	3,600	−4.5%
合計		58,510	56,713	−3.1%

市民の皆様にはこの度刷新しました「ごみの分別・減量ガイドブック」を配布し、ごみの分別・減量について引き続き、ご理解・ご協力を呼びかけてまいります。